

性別関係なく能力磨ける

井村屋・初の女性工場長 田中さん

食品メーカー大手の井村屋グループ（津市）が、性別にとらわれない「ジェンダーフリー」の人材育成を進めている。中島伸子社長（六九）の取り組みを象徴する人事として、主力のアイスデザート工場に今月、初の女性工場長が誕生した。田中規美子さん（五〇）は、中島社長に背中を押してもらった経験を振り返り、「自分がロールモデルとなり、女性が上を目指せる工場にしたい」と意欲を燃やす。（今村節）



自身の経験などを話す井村屋アイスデザート工場の田中規美子工場長（津市）

「あずきバー」などの看板商品を作るアイスデザート工場は、十〜六十代の男女六十六人が働く。これまで工場長は男性の「指定席」。重い機械を動かすオペレーターを女性が任せられることは少なかった。「補助具を使うとか工夫すればいいだけ。風土を変えたい。意見を聞き、働きやすい工場にしたい」と田中さん。

二回の出産・育休を経て四十一歳で管理職（課長代理）に昇進すると「高卒で管理職ができるか」と不安に。そこで、井村屋グループで「女性初」のキャリアを積み重ねてきた中島社長（当時は専務）に相談。「性別や学歴は関係ない」と励まされ、田中さんは

「みんなを引っ張ってこういう意識に変わった」。井村屋がジェンダーフリーに力を注ぐのは、商品開発に女性目線が必須であり、企業の成長には欠かせないから。陣頭指揮を浅田剛夫会長とともに執ってきたのが中島社長だ。専務時代の二〇一五年には、多様な人材を管理職に登用する

ため、三つあった人事コースを総合職に統一し賃金体系も一本化。将来の女性幹部候補を育てるため、女性だけの研修を進めてきた。女性管理職比率は今月一日時点で13・8%に上り、「二三年度に15%以上」とした中期目標は達成できる見通し。東海三県の平均値（帝国データバンク調査、

二二年）は愛知8・5%、岐阜7・7%、三重9・1%で、これを上回る。男性中心だった開発職も女性が増え、男女比率はほぼ同じ。二〇年度の男性の育休取得率も42%に高まった。「性別も学歴も国籍も関係なく能力を磨ける」と田中さん。「学び続け、視野を広げたい」と先を見据えた。

二二年）は愛知8・5%、岐阜7・7%、三重9・1%で、これを上回る。男性中心だった開発職も女性が増え、男女比率はほぼ同じ。二〇年度の男性の育休取得率も42%に高まった。「性別も学歴も国籍も関係なく能力を磨ける」と田中さん。「学び続け、視野を広げたい」と先を見据えた。